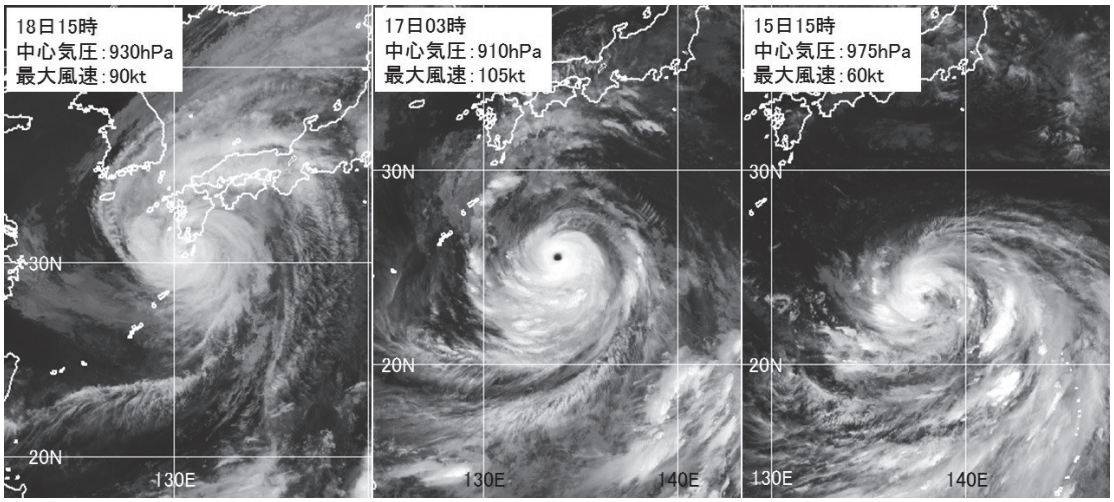
今月のひまわり画像―2022年９月

九州南部に特別警報発表をもたらした台風第14号



第１図　2022年９月15日15時～18日15時（日本時間）の36時間毎の日本の南から西日本付近における赤外画像.

2022年９月14日03時（日本時間）に小笠原近海で台風第14号が発生した（以下，台風の記録は速報値）．発生当初はゆっくりとした速度で東～北向きに進んでいたが，同日21時頃から太平洋高気圧の縁に沿う方向へ向きを変え，海面水温が約29℃の発達に適した海域を西へ進み出した．

第１図は９月15日15時～18日15時の36時間毎の赤外画像である．第14号は中心から離れた位置にも発達した対流雲を伴っており（同図右），15日12時には大型の台風となった．西進しながら発達を継続し，同日21時頃から低気圧性曲率を持ったバンド状の雲域が中心を１周以上取り巻くようになった．その後16日09時頃には眼が明瞭となり，中心気圧950hPa，最大風速85kt（１kt≒0.51m/s）まで発達した．この頃から進路を北西に変え，17日03時には T_{BB}（等価黒体温度）－70℃以下（雲頂高度約16km 以上）の壁雲が眼を取り囲み，前24時間で中心気圧は55hPa 低下して910hPa に，最大風速は35kt 強まって105kt となり，台風は猛烈な強さへと急発達した（同図中央）．気象庁は17日21時40分，沖縄地方以外では初めてとなる，台風を要因とした暴風・波浪・高潮の特別警報を鹿児島県に発表し，最大級の警戒を呼び掛けた．

17日03時以降も第14号はトロコイダル運動をしながら北上を続け，気象レーダーで中心付近を捉えることができた18日03時頃には，多重眼を示唆するエコーが観測されるなど，発達した台風に特徴的な現象が見られた（図略）．台風の接近に伴い，鹿児島県屋久島町小瀬田では同日11時51分に最大瞬間風速50.9m/s の猛烈な風が吹き，台風の中心付近が通過した13時13分には，1937年の統計開始以来最も低い値である海面気圧932.3hPa を観測した．その後衛星画像では眼が不明瞭になったが（同図左），台風周辺や台風本体の発達した雨雲により宮崎県を中心に記録的な大雨（西米良では24時間降水量579.0mm など）となり，同県には大雨特別警報が発表された．

第14号は18日19時頃に中心気圧935hPa，最大風速90kt で鹿児島市付近に上陸し，1951年の統計開始以来，上陸時の中心気圧としては過去４位タイの低い記録となった．第14号は上陸した後，1951年の台風第15号（ルース台風，今回と同じ中心気圧935hPa で鹿児島県串木野市（現在，いちき串木野市）付近に上陸）と似たコースを進んだが，移動速度が遅かったため，西日本各地で24時間降水量や最大瞬間風速の観測史上１位の値を更新するなど，記録的な大雨と暴風をもたらした．

（気象庁大気海洋部予報課　村松勇治）